さ緑のたださ緑の山の径
あが前(さき)の世の郷かもしれず　秋保嘉子

三度目の一首鑑賞になります。「さ緑」を「ただ」で繋いだ色彩の表現（リフレイン）の巧みさに惹かれて選択しました。また、当方の一首（郭公の声のリレーに誘われ歩む山道こみどり萌黄）を思い出しました。拙詠は緑の色の異なる二つの表現を繋いではいるものの、単なる自然詠を超えてはいません。一方、作者は自然への洞察に加えてご自身の生き方、あり様に展開しており詠草に広がりを生み出しています。

黒沼　貞志